

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 博物館DX推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部県民文化局 博物館 総務部管理調整係 電話番号：0575-28-3111(内250)

E-mail：c21804@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,453 千円 (前年度予算額： 12,772 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	12,772	12,772	0	0	0	0	0	0	0
要求額	1,453	0	0	0	0	0	0	0	1,453
決定額	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

博物館メールマガジンテンプレートの作成による誤情報発信の抑制及びメールマガジンとLOGOフォームによる事前予約用フォームの連携により、博物館利用者の利便性の向上を図る。

加えて、令和4年度整備中の刀剣デジタルコンテンツへの追加データ用として、令和2年度以降に整備（研磨・外装作成）された赤羽刀25振のデジタルデータを作成する。

(2) 事業内容

ア 博物館メールマガジンテンプレート作成及び事前予約システムとの連動
テンプレート作成により、現状、手入力作業で作成を人為的ミスのないメールマガジン作成・送信を実現するとともに、現状、メールマガジンから事前予約用フォームへのリンクを形成し、利用者の利便性の向上を図る。

イ 収蔵品（刀剣）鑑賞システムの開発

令和4年度整備中の刀剣デジタルコンテンツのデータを拡充することで、利用者が閲覧可能な刀剣写真数を増やし、通常展示では不可能な鑑賞体験の提供に資する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県単独事業として実施

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	50	専門家による刀剣ハンドリングを伴う撮影助手
委託料	1,403	メールマガジンテンプレート作成 刀剣専用スキャナーによる撮像と画像処理、データ作成
合計	1,453	

決定額の考え方

メールマガジンテンプレート作成については、令和4年度予算を有効に活用し対応することとし、計上を見送ります。

収蔵品鑑賞システムのデータ拡充については、本システムがまだ稼働しておらず、システムの有効性、拡充の必要性が不明なため計上を見送ります。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

コロナ禍においても博物館の魅力を発信できるよう、web上でデジタル技術を活用した付加価値の高いコンテンツを提供するとともに、博物館内においては、円滑な予約手続きを導入し入場者の増加と満足度向上を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H30)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R5)	達成率
博物館入館者数 (館外事業の利用者含む)	249,375	82,205	200,000	200,000	200,000	41%

※令和3年度はコロナ感染拡大防止のため、一時休館、イベント等を休止としたため、入館者数が減少。

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	
	指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %
令和3年度	バーチャル博物館事業として、博物館の代表的な資料80点を館内のデジタルサイネージにて観覧できるコンテンツ及びその中からさらに抽出された12点を博物館ホームページ内で観覧できる仕組みとしてデジタルけんぱく展示室を作成し、来館者及びホームページ閲覧者に提供した。
	指標① 目標： 200,000 実績： 82,205 達成率： 41.1 %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>コロナ禍により新たな日常となったデジタル化を推進し、web上で博物館の質の高いコンテンツ作成による魅力を発信することは必要性が高く、また、それとともに、web上からの博物館へのアクセス向上が必要となっている。さらに館内における混雑を緩和することにより、コロナ禍においても安定した運営を実施していく必要がある。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価)	
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</p>	
(評価)	

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 博物館は、毎年テーマを絞り、特別展、企画展を開催し、県民が持つ「新しいことをもっと知りたい」との需要に応えているが、展示期間は限られる。一方で常設展示は近年大規模な改修を行っておらず、老朽化、陳腐化している。特別展、企画展が行われない時期の博物館の魅力を上向きさせ、集客を図るかが課題となっている。</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 博物館の使命は、「本物の資料」を収集・保管・展示し調査研究と教育を一体的に進めることであり、博物館のデジタル化を来館者が展示資料の価値をより深く理解するための重要な手法として位置づけ、取組みを進めるとともに、来館した者が快適かつ安全に博物館の観覧、体験が行える取組みを進める。</p>

(他事業と組み合わせる場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	